ヘッダー連動の見出し1

創作　おちっぷす（作者名）

■基本情報

使用フォント：源暎ちくご明朝　v3　　8.5 ポイント
Ａ５サイズ（塗り足しなし）
文字組み：28 字×23 行　二段組み
余白：上 16 ミリ、下 16 ミリ、小口 16 ミリ、ノド 22 ミリ

※余白や文字組に正解はありません。これは薄い紙で三〇〇ページ程度の本向けに、「見やすい＆文字をたくさん詰める」という意図で作ったテンプレです。条件に合わせて各自調整してください。

■文字コピペ時の注意点

ワード設定を崩さないように、右クリック→「Ａ」アイコンの「テキストのみ保持」でペーストしましょう。

■アンソロジーへの使用の場合

必ず主催さんの要綱を確認し、原稿についての指示があったら守ってください。

■小説本文中の記号について

【源暎明朝なら何もしなくても大丈夫なこと】

・全角の「！」「？」は縦になる
・全角のダッシュ「――」は（字間が０なら）勝手に二文字つながる

【困ったこと】

・半角の「!!」「!?」は横になる
・全角の波線「〜〜」がつながらない
・全角の濁点「あ゛」は文字の下に位置する

これらはユニコードや文字パレットから出す縦書き用の記号で置換すれば解決できます

【これで置換しよう】

・「!!」「!?」→「‼」「⁉」
・「〜〜」→「〰」
・「あ゛」→「ゐ」（ワード上で「３０９９」と打って F5 キーを押して変換）

（note にて置換マクロを配布してます）
https://note.com/kashiri/n/n9039f4b8f70b

※環境によっては PDF 出力後、キレイに見えないおそれがあるので、よく確認してください。CubePDF を使う、縦中横を使うなどの対処法があります。

■見出し設定について

◎簡単な使い方

・章を増やすとき……見出しと本文を範囲選択して、後ろにコピーして増やしてください。

※見出しの最後にカーソルがある状態で改行しないでください。（空白行に見出しスタイルが適用されて、ヘッダーが思わぬ表示になるおそれがあります）

■ぬりたしの調整方法

例：ぬりたし3ミリの場合

レイアウト→ページ設定で変更する

① 用紙タブ「サイズを指定」を選択、幅と高さをそれぞれ＋6ミリする（ぬりたし指定の3ミリ×2だけ増やす）

② 余白タブにて、上、下、内側、外側の余白に全部＋3ミリする

③ ページ上部の横書きの見出し文字のところをダブルクリックし、ヘッダー編集モードにする。上部リボン「ヘッダーとフッター」の「上からのヘッダー位置」を＋3ミリする。

■フォントサイズをもう少し大きくする場合

◎小説本文をすべて選択→9pt にすることで変えられます。

文字組み：26 字×23 行になります。

一般的な小説同人誌のフォントサイズは 8.5pt か 9pt なので、このどちらか推奨です。

■必須確認

※Win10、ワードのバージョンは 2207 で作成しました。入稿前に必ず（他の閲覧ソフトではなく）Adobe Reader でテキストボックスや記号、特殊な濁点、外字などが表示されているか確認してください。本文をドラッグしたとき文字が全部選択されていればフォントの埋め込みＯＫです。意図せず記号がアウトライン化（画像化）されている場合は、ドラッグで選択不可能です。アウトライン化されていると文字が太くなり印刷時に違和感が出る恐れがあります。その際は CubePDF で PDF 化するといけるかもしれません。

参考記事（ワードでも同じです。濁点端ぎ注意）

https://note.com/kashiri/n/n260d0fc638bc

ヘッダー連動の見出し2

L・M・オルコット

「プレゼントのないクリスマスなんか、クリスマスじゃないわ。」と、ジョウは、敷物の上にねそべって不平そうにいいました。

「貧乏ってほんとにいやねえ。」と、メグはじぶんの着古した服を見ながらため息をつきました。

「ある少女が、いいものをたくさんもち、ある少女が、ちっとも、もたないなんて、不公平だと思うわ。」と、小さいエミイは、鼻をならしながらいいました。

「でもね、あたしたちは、おとうさんもおかあさんもあるし、こうして姉妹があるんだもの、いいじゃないの。」と、ベスが、すみのほうから満足そうにいいました。

ストーブの火に照らしだされた四つのわかわかしい顔は、この快活な言葉でいきいきとかがやきましたが、ジョウが悲しそうに、

「だって、おとうさんは従軍僧で戦争にいっておるすだし、これからも長いことお目にかかれないと思うわ。」と、いったとき、またもやくらい影におおわれ、だれもしばらく口をききませんでした。けれど、やがてメグが調子をかえて、

「おかあさんが、今年のクリスマスは、プレゼントなしとおっしゃったのは、みんな暮しがつらくなるし、兵隊さんたちが戦争にいっているのに、たのしみのためにお金を使うのはいけないと、お考えになったからよ。あたしたち、たいしたことはできないけど、すこしの犠牲ははらえるし、よろこんではらうべきだわ。でも、あたしはらえるかしら?」

メグは、ほしいものを犠牲にするのがおしいというように頭をふりました。

「だけど、あたしたちの一ドルを献金したって、たいして兵隊さんの役にたつとは思えないわ。あたしはおかあさんやあなたがたから、プレゼントがもらえないのはいいとして、じぶんでアンデインとシントラム（本の名）を買いたいわ。前からほしかったんですもの。」と、本の好きなジョウがそういうと、ベスはため息をつきながら、

「あたしはあたらしい譜本を買いたいわ。」

エミイも、きっぱりと、

「あたし、フェバアの上等の色鉛筆がほしいわ。ほんとにあたしいるんですもの。」と、いいました。ジョウは、

「おかあさんは、あたしたちのお金のこと、なんにもおっしゃらなかったわ。だから、めいめいほしいものを買ってたのしみましょうよ。これだけのお金をもうけるのに、みんなずいぶん苦労したんだもの。」と、紳士がやるように長靴のかかとをしらべながらいいました。

「そうよ、ほとんど一日中、あのやっかいな子供たちの勉強を見てやるのたまらないわ。」と、メグがまたも不平をいいますと、

つづいてジョウが、
「そんなことあたしの半分の苦労じゃないわ。あたしは、神経痛で気むずかしいおばあさんに使われてさ。どんなにしてあげても気にいらなくて、いっそのこと窓からとびだそうか、それとも、おばあさんの横っ面をはりとばしてやろうかと思うくらいよ。」
「不平、いってもしょうがないけど、皿をあらったり、そこらを片づけたり、そんな家のなかの仕事は、ほんとにいやな仕事だわ。手がこわばって、ピアノひけないわ。」
ベスは大きな［#「大きな」は底本では「大さな」］ため息をついて、荒れたじぶんの手を見ました。すると、エミイも大声でいいました。
「あたしぐらい苦労しているものないわ。だって、あなたたちは、勉強ができないといっていじめたり、服がおかしいといって笑ったり、おとうさんが金持でないといったり、鼻のかっこうがわるいといってあざけったりする生意気な連中と、いっしょに学校にいかなくてもいいんですもの。」
こうして、みんなが不平をぶちまけたあげく、メグがいいました。
「あたしたちの小さいとき、おとうさんのなくされたお金が、今でもあったらいいと思わない？　そうしたら、どんなに幸福でしょう。」
すると、ベスが聞きとがめていいました。
「こないだ、ねえさんは、キングさんのとこの子は、お金があっても、いつもけんかしたり怒ったりしてるから、あたしたちのほうがずっと幸福だっていったじゃないの？」
「ええ、いったわ。あたしたちは、はたらかなければならないけど、ジョウのいうように、たのしいあいぼうですもの。」
「ジョウねえさん、あいぼうだなんてぞんざいな言葉だわ。」と、エミイは、敷物の上にねそべっているジョウのほうを見ていました。ジョウは、すぐに起きなおって、エプロンのかくしに、りょう手をつっこんで、口笛を吹きはじめました。
「ジョウ、およしなさい。まるで男の子みたい。」
「だから、あたしするの。」
「あたし、下品な、女らしくない子は大きらい。」
「あたし、気どり屋のおすまし、大きらい。」
すると、仲裁者のベスがおどけ顔で、
「おなじ小さな巣にいる小鳥、いつもなかよしあらそわぬ。」と、うたいだしたので、二人のとがった声も笑い声となりましたが、メグがねえさんぶってお説教をはじめました。［#「ました。」は底本では「しまた。」］
「二人ともいけないわ。それにジョウは、もう男の子みたいなおいたはやめて、しとやかになさいよ。せいも高いし髪もゆってるのですものもうわかい婦人だわ。」

３２１０９８７６５４３２１０９８７６５４３２１
２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８

３２１０９８７６５４３２１０９８７６５４３２１
２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８

■おまけ

ワードで小説を書くときに必要そうな設定まとめ（テンプレ設定済み。自分で設定を変えたい人向け）

［フォント］

・文字色……一応「自動」ではなく「黒」を設定する

・ルビ……普通に設定すると「見本（みほん）」この隙間。Alt＋F9でフィールドコードを表示して「\s\up 7」を「\s\up 6」に書き換えると隙間が縮まっていい感じになる→「見本（みほん）」（一括置換可能）

※ルビを設定した行間だけ広がらないように、行間設定は「固定」にする必要がある。

［段落］

・インデントと行間隔→配置　全般を「両端揃え」にすると文字がそろって見た目がきれいになる。（一行当たりの文字数は多少前後する）

・改ページと改行→改ページ位置の自動修正は全部チェックを外すと、意図しない改ページが起こらなくなる。

・体裁→「禁則処理を行う」「句読点のぶら下げを行う」をチェックする。

・余白と行数、行間の兼ね合いにより、左右の余白に計算上の「あまり」が出る設定にしてしまうと、文字が全体的に右にずれて、奇数ページと偶数ページの余白やノンブル位置が合わなくなる。以下のページの「行間を変更して対処する方法」がオススメ。（ページ設定の行数をいったん設定して「行送り」を計算。その数字を「段落」で固定した行間の「間隔」にコピペ

http://howto.fanweb.jp/archives/995

（本を作ろう　小説本（小説同人誌）製作情報さま）

・どうしてもなんか全体的にずれる場合

先述した余白計算でなんとかなるはずなのであまりおすすめしないが、全ページをCtrl＋Aで選択し、フォント→詳細設定→位置を「下げる」にして間隔を3ptとかに設定すると、全体的にずれるので、結果的に真ん中に印刷されるようになる。ワード上ではメチャクチャ見づらくなる。

数ミリの違いなので、最後には「気にしない」のがおすすめです。

［禁則処理］

・ファイル→オプション→文字体裁で禁則処理の設定を「高レベル」にする。（ver1.1以降から設定済み）

作風によるが、「♡」を設定したければ、「高レベル」を選んだ後に「ユーザー設定」にて行頭禁則文字に「♡」を追加する。（私は設定していません）

■免責

いかなるトラブル・損失・損害に対して責任を負いません。常識の範囲にて自己責任で使用してください。
Adobe Reader 上での表示が万全ならば印刷もその通りにされるはずですが、試し刷りと余裕のある入稿をおすすめします。

また、最新バージョンで改良している可能性があるので、DLから日が経っている場合は、配布元の記事をご確認ください。
https://note.com/kashiri/n/n7a8d075483b5

よい本が出ますように！
テンプレ作成：創作お Tips（@onote_etc）
クレジット不要ですが、役に立ったら記事のおシェアやおサポートをお願いします♡
https://note.com/kashiri/n/n055a95e22b5a